

# 茨城県データサイエンティスト育成講座

## 実施レポート

### データサイエンティスト育成講座とは？

茨城県では、データの分析や利活用によってビジネス課題を解決に導く「データサイエンティスト」を育成するため、2020年度から関連講座を実施しております。

この講座は、令和6年度では、データサイエンティストに求められる統計学、プログラミングなどを授業や演習形式で学習する「スキル修得プログラム」と、データ利活用などに実践的に取り組みたい企業を対象に専門家による伴走型支援を実施する「ビジネス企画支援プログラム」の2つのプログラムで構成されています。

#### ① スキル習得プログラム

- ・ 期 間 2024年9月5日～11月28日
- ・ 内 容 統計学、プログラミングなど  
計14コマ（1コマ3時間）
- ・ 受講者 28名（22社）

#### ② ビジネス企画支援プログラム

- ・ 期 間 2024年12月～2025年3月
- ・ 内 容 データ利活用に関するプラン実現に向けて専門家がアドバイス
- ・ 受講者 2社

今年度のビジネス活用支援プログラムには、以下の会社に参加いただきました。

参加者	業種	所在地
株式会社茨城新聞社	情報通信業	水戸市
株式会社第一機電	製造業	北茨城市

この取組は、各者が抱えている課題などについて、データを利活用することで解決に導き、事業の高付加価値化を図ろうとする企業の実践を後押しするものです。

具体には、各社が検討したデータ利活用に関するプランについて、データサイエンティストなどの専門家がヒアリングすることによって、ブラッシュアップや受講者が保有するデータの分析手法や結果についてアドバイスをを行います。

なお、あくまでも受講者が主体となって取り組み、専門家は受講者を専門的な知見や技術によって支援する立場に徹する点が最も特徴的な点です。

ここからは、ビジネス企画支援プログラムに取り組んだ2社が参加した意見交換会での感想などを紹介します。



## 各参加者の取組や意見

### ○株式会社 茨城新聞社



茨城新聞社

新聞やデジタルメディアを活用する茨城の総合情報企業として活動している（株）茨城新聞社は、発行部数の傾向から、顧客のニーズを把握するために、データを活用できないか検討した。

そこで web のニュースサービスを多く活用している層のうち、新聞無読者でのペルソナ（顧客像を具体化したもの）を設定し、インセプションデッキを作成した。

その結果、仮設とデータ、市場調査が必要だと判明し、今後の事業計画の方向性が見えたとのこと。

取組を振り返り、「市場の調査、データの分析が足りないことが分かった。方向性を決めて、取り組んでいきたい。」と語った。

### ○株式会社第一機電



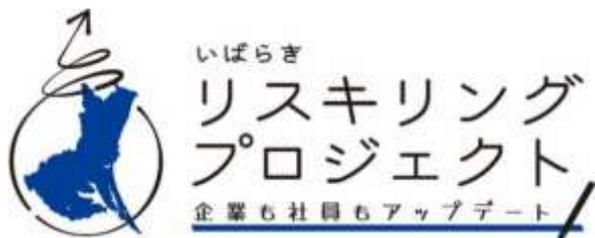
株式会社第一機電

北茨城市に工場を構え、主に加熱技術を活かした装置を製造している（株）第一機電は、装置の異常を前兆の段階で検出する手法の開発のために、データを活用することができないか検討した。

元々、AI の活用に興味があったことで、データの取得を行っていたため、ヒストグラムや折れ線等を用いてデータの可視化を行った。

例えば装置の温度について、稼働中、非稼働中での相関（散布図）を確認したり、1日ごとの統計値を時系列で確認しながら、データを処理するアルゴリズムの検討を行い、機械学習アルゴリズムの適用を実施した。

今後の課題として、「検出された外れ値について、検証する必要があること、装置の異常には長期的なものから短期的なものがあると推測されるため、スケールを変えながらデータを見ていく必要がある」と語った。



事業主催

茨城県産業戦略部産業人材育成課

業務委託先

エッジテクノロジー株式会社



茨城県 HP : <https://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/shokorodo/sanjin/index.html>

リスキリングポータルサイト : <https://ibaraki-rs.jp/>